

ストーリー導入

俺の高校2年間は…いやこの17年間の人生は紛れもなく最悪だった。
だが明日からの俺は…

20XX年4月女子校の共学化計画のサンプルとして俺は〇〇高校に編入することになった。

容姿性格は平凡であったが、なんの取り柄もなかった。また俺の家は貧乏で前の学校では学費が払えなくて、お金のことでいじめられることが

少なくなかった。そして俺の経済状況を見るに見かねた担任の先生が、俺のために血眼になって探し当てたのがこの編入の案件だった。

なんと驚いたことに、この共学化計画は共学への事前テストのため学費と寮での生活費はすべて〇〇高校の負担ということだった!

編入の数日前にはすべての手続きを済ませ、これからお世話になる寮へ向かった。

俺「随分歩いたな…、ここの角を曲がるともうそろそろ寮が見えてくるはずだ。これからの学園生活は何股もしまくってヤルにヤッてやるぜ!」

ドンッ(画面を揺らすスクリプト)

?「うおあああああっ(雄叫び)」

俺「す、すみません、大丈夫ですか、お怪我はありませんか」

俺は必死に頭を下げて顔を上げてみると、そこには頬を赤らめた筋骨隆々の女の子が立っていた。

?「わだすは大丈夫だあ〜。あんたこそ大丈夫かえ〜?
そんなおんもそんな荷物こ持ってどごさいぐんだうあ?
てづだうがあ?」

俺「えっ、大丈夫ですよ、もうすぐ目的地につくので!」

?「ええがな、ええがなあ〜」

女の子はそう言うと軽々と俺ごと荷物を持ち上げた。

?「こまっぢゃあ人わだす見捨てておげねんだ、かがわっだやづはみなともだづなんだうあって、わだすはヴァーヴィー、おめえのなめえ教えてけろじゃ。」

俺「…俺は童貞高校生〇〇(名前を入力してください)!!
一人で遊園地に遊びに行っ…

全身黒タイツの怪しげなホモ現場を目撃した!!
グロ現場を見るのに夢中になっていた俺は・・・
背後から近づいてくるもう一人のホモに気づかなかった・・・
俺はそのホモに薬を飲まされ目が覚めたら・・・

異性に告白して三回振られたら死んでしまう身体になっていた!!(何故かわかった)
やっかいなことに、一年以内に三回告白をしなくても死んでしまうことが判明した!!(何故かわかった)」

俺「・・・俺は童貞高校生〇〇(名前を入力してください)!!
明日から〇〇高校に通うことになったパーフェクト射精マシンだ!!」

序章

「ジリリリリリリッ(本物の目覚ましの音)」

目覚ましの音に急かされるように俺はまだ眠い重いまぶたを開けながら目覚ましを止めた。

俺「ふう、ドキドキしすぎて2時間しか眠れなかった・・・、何せ今日は編入の日だ。今日から俺のラブラブドキドキ、ポロリもあるよ!な学園生活の始まりだ・・・!」

自己紹介

担任「はあーい、皆さん席についてください。今日から新しい仲間がこのクラスに加わります。
みなさんも知っての通り共学化第一号の生徒が来ましたので自己紹介をしてもらいむわあす。」

俺「・・・俺は童貞高校生〇〇(入力した名前)・・・略」

担任「それじゃ〇〇君はあそこの席に座ってください」

俺「わかりました。」

俺(ふう、緊張した。これからうまくやっていけるかな・・・)

?「私は〇〇